カタチには理由(ワケ)がある(47)

Shape follows Function & Taste

～グラマン F6F-5 ヘルキャット

[太平洋戦争中期まで主力だった F4F と↓]

本機、F6F ヘルキャットは、1942 年に初飛行した、太平洋戦争後期の米国海軍主力戦闘機です。どこか愛嬌があり、のんびりしたグラマンの前作、F4F に比べて一回り大きくなった機体は、太平洋戦争に突入し、米国が本気で戦争を勝ちに来た、という感じのするデザインです。同時期に、未だライバルとして日本海軍で使われていた零戦と比べると、そのアウトラインは直線的でディテールが乏しく、味気の無いものに見えますが、逆に単純な輪郭線で構成される機体からは、零戦に倍する 2000 馬力級エンジンを搭載し、力任せでねじ伏せる設計思想も感じられます。日本海軍のパイロットは、きっとその文化の違いに圧倒されたのではないかと想像します。12000 機も製造された機体でしたが、大西洋において英国海軍によって少数が使われたものの、小型の護衛空母で運用するには F4F の方が好まれたこともあり、世界中で使用された、というわけではなかったようです。F4U コルセアに比べて発展性に乏しかった本機は、太平洋戦争の終結から 5 年後の朝鮮戦争にはすでに主力機の座から退いており、対日本戦だけに輝いた機体ということもできます。

【模型について】

イタリアのイタレリ(Italeri)製 1/72 のキットです。1/72 のキットに関しては、古くはエレール、ハセガワのキットがあり(残念ながら凸モールド)、その後、アカデミー、イタレリ、ドラゴン、エデュアルドと多様なメーカーからリリースされていますが、個人的にイタレリのプロポーションやモールドが好きで、これを制作しました。欠点は、フラップがアップ状態だと段差ができてしまうことで、ダウン状態を選択せざるを得ないことでしょうか。上記したように、この機体のディテールは味気がないので、R-2800 エンジンをレジンのアフターパーツに換装してあります。（中川裕幸　2021 年 9 月）